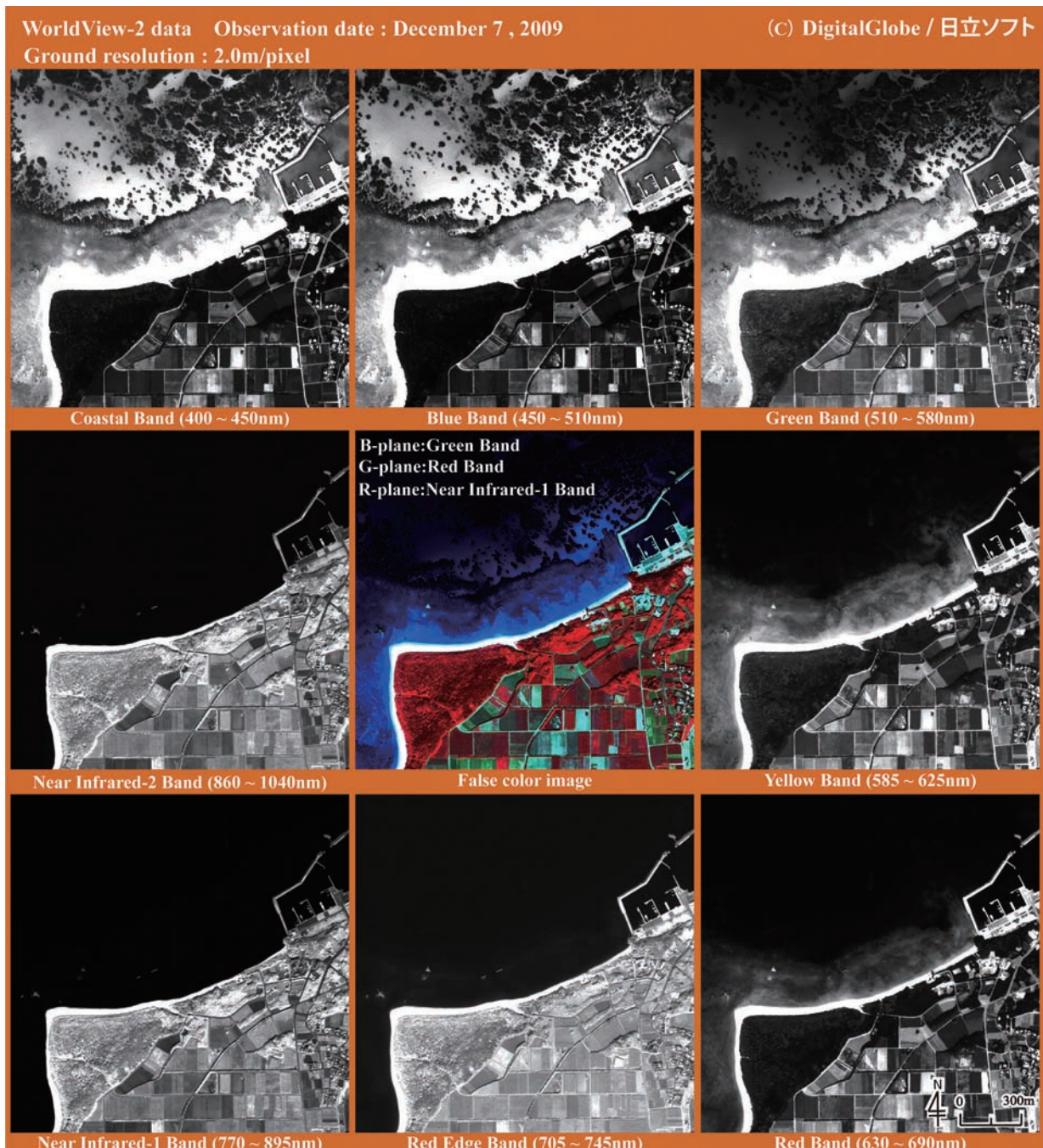


人工衛星WorldView-2がとらえた「波照間島の北浜・南浜周辺」(2)

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

WorldView-2には、可視域から近赤外域にわたって「Coastal、Blue、Green、Yellow、Red、Red Edge、Near Infrared-1、Near Infrared-2」といった8種類の観測バンド帯を有するマルチスペクトルセンサが搭載されています。前掲の観測領域を対象として、8種類すべての観測波長帯において観測されたWorldView-2データを並べてみました。左上部から右回りに中心観測波長が短い順に対応します。地表被覆物の分光反射率が高い箇所の画像濃度値は高くなり、画像上では明白色になります。下図中央部にはフォールスカラー合成画像を配置しました。この画像上では、植生領域が赤色に発色します。CoastalバンドとBlueバンドで観測された画像を見ると、海面の状況や珊瑚礁の分布状況等の識別に有効であることがわかります。Red Edgeバンド画像を見ると、Near Infrared-1とNear Infrared-2のバンド画像に比べて、画像全体の色調が明るくなっていることがわかります。Red Edgeバンド画像は、植生状態の分析支援に役立つと言われています。「Coastal、Yellow、Red Edge、Near Infrared-2」といった4つのバンド帯に対応する観測画像を得られることがWorldView-2の特徴となっており、これらの観測画像を用いれば、地表被覆面の分類精度が向上するものと期待されています。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。 http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html